

# 日産財団月報 2016/12 ・ 2017/1月度

## 2017年に向けて

2016年はあれよという間に暮れ、2017年が明けました。新年のご挨拶もせぬまま既に仕事はスタートしてしまいましたが、皆様本年もよろしくお願いいたします。

2017年の活動の焦点は、財団のコアとなる価値をしっかりと再定義して、その価値を高めるために既存事業の進化や新たな挑戦を考えることだと思っています。コアの再定義という全く新しいことを考えるように聞こえますが、すでに日産財団には「人材育成」というミッションと、「理科教育助成」「リーダーシップ講座」の、既に広く認知された事業がありますので、これらに芯を通し、芯に沿った進化の計画を作ることかと思えます。

具体的には以下のような視点を入れて考えたいと思います。

- 1) 財団コアの再定義 ; 21世紀型人材の育成
- 2) 理科教育助成 ; 財団に蓄積した知見(実践例)を活用した貢献
- 3) リーダーシップ講座 ; リーダー研究の深化、新ケース開発

修了生の組織化(アルムナイ)、若年層への拡大

まだラフなアイデアですので、皆様のお知恵をいただき、精力的に進めていきたいと思っておりますので、ご支援よろしくお願いいたします。

## 自動車関連財団 情報交換会(第5回)に参加

日本の主要自動車メーカーは1970~80年代に財団を設立し、2011~12年の公益法人化を経て、現在、5財団がそれぞれユニークな公益事業を行っています。いずれの財団も、不透明な環境下でより良い社会貢献を目指して様々な工夫を重ねており、その実態や悩みを知ることは大変良い勉強になります。

今年度の交換会は12月9日に広島のマツダ本社で開催され、各社からの活動報告と論議に加え、マツダミュージアム+工場見学が組まれました。マツダの歴史を実車で懐かしく振り返るとともに、同社を支える良くオーガナイズされた混流ラインに感心しました。



《歴史を作った名車たち、コスモスポーツ》



《マツダの意地と誇り、ロータリーエンジン》

## 《自動車関連財団のあらまし・じっと見ると悩みが透けて見えてきます》

	トヨタ財団	本田財団	マツダ財団	スズキ財団	スズキ教育文化財団	日産財団
設立	1974年	1977年	1984年	1980年	2000年	1974年
理事長	遠山 敦子 元文部科学大臣	石田 寛人 金沢学院大学名誉学長	金井 誠太 マツダ(株)代表取締役会長	鈴木 修 スズキ(株)代表取締役会長	鈴木 修 スズキ(株)代表取締役会長	志賀 俊之 日産自動車(株)代表取締役副会長
資産合計額	411億円	47億円	10億円	75億円	29億円	61億円
常勤職員	16名	6名	5名	1名	1名	5名
収益 (百万円)	収益計	654	258	74	104	42
	内寄付など	0	0	50	1	0
費用 (百万円)	費用計	683	233	69	102	42
	内事業費	603	208	64	84	34
事業目的	生活・自然環境、社会福祉、教育文化を助成、福祉社会の発展に資する	科学技術を国際的学際的に再評価、人間性あふれる文明を創造	科学技術の振興、青少年の健全育成	小型自動車等に係る科学的研究の発展と成果の普及	青少年の健全育成、国際交流に寄与する	人材育成をもって社会の発展に寄与する
主な事業	研究助成、国内外プロジェクト助成、NPOカレッジ(カイケツ)	本田賞、国際シンポジウム、若手研究者助成	研究助成、地域貢献プロジェクト、市民活動支援、大学講義、講演会	研究助成、国内外のシンポジウム助成、外国人研究者の留学助成	奨学金、外国人学校支援	理科教育助成、リーダーシップ養成講座